

きょうわ

協和小学校

学校通信

2011

9/28

No. 31

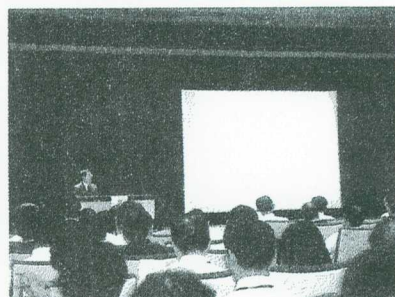
平成23年度 協和小学校教育目標

自立への芽をはぐくむ

協和小は大丈夫か？…大仙市で放射線量測定

9月13日、市当局より、グラウンドを含む本校敷地内7箇所
の放射線量を測定していただきました。

福島県では、いまだ外で遊ぶことを控えている学校もあり、全国的には、お母さん方を中心にして子どもの放射線量基準値の見直しを求める運動が広がってきています。国際放射線防護委員会（ICRP）が示す年間被曝量の上限は1ミリシーベルト（＝1,000マイクロシーベルト）ですが、本県では独自に、一般施設での空間放射線量の許容上限値を0.19マイクロシーベルト/時、学校施設での空間放射線量の許容上限値を0.12マイクロシーベルト/時と定め、公共施設周辺の芝生や土、空間の放射線量を測定しているようです。先日、秋田県教育委員会が主催した「放射能等に係る研修会」に参加したところ、本県としては旧69市町村をもとに調査を行い、現在のところ安全であるとの見解が示されました。大仙市でも、市内小・中学校や幼稚園、公民館などの公共施設敷地内数箇所を測定し、結果をホームページ上で公表しています。



〈放射能等に係る研修会〉

本校での測定結果は、放射性ヨウ素（I-131）も放射性セシウム（Cs-134, Cs-137）も検出されず、問題なしとの判定をいただきました。本校の子どもたちは、外で元気に遊ぶことができる状況にあるということです。この後の10月14日にはマラソン大会となべっこ会も計画しておりますので、子どもたちに「スポーツの秋、食欲の秋」を十分満喫させたいと考えております。

70kmを超えるバス・ツアー…2年生の統合前の学校巡り



9月26日、2年生が、生活科「町たんけんに出かけよう」の学習で、協和地域の統合前の小学校跡地や校舎を見学してまわりました。かつて、子どもたちの歓声に包まれていた校舎も、今はひっそりとした佇まいを見せておりますが、中には一般の会社として再生している校舎もあり、時代の流れを感じました。2年生を乗せたバスは、3時間をかけて77km余りを走り、子どもたちは改めて協和地域の広さを実感したようでした。

